

全国中高生 水フォーラム

—未来につなぐ水のリレー—

2012



全国中高生水フォーラム

●開催趣旨

世界中における深刻な水不足、水汚染、洪水による水災害、あるいは地下水涸渇、湖沼の面積激減などの多面的水危機が問題となっている。

また、2004年スマトラ沖地震、2010年2月のチリ沖地震、そして2011年の3月11日に発生した、「東日本大震災」においては津波による多くの犠牲者と被災者を出した大災害であったことは言うまでもなく、世界中においてますます水に関わる深刻な問題が発生している。さらに、人口増加と途上国の生活レベル向上による水不足など、地球規模の課題となっている。

このような世界の水問題について国際間で協議し、解決に向けて具体的な指針を示すことを目的として1997年より3年に一度、「世界水フォーラム」が開催されている。

2003年に日本（京都・大阪・滋賀）で開催された「第3回世界水フォーラム」の主要な分科会のひとつとして、「第1回世界子ども水フォーラム」が開催され日本の子どもたちも参加した。

このとき、日本の子どもたちは、世界の子どもたちとの水に対する関わり方の違いを知り、衝撃を受けたが、一方、子どもたち自ら考え、行動を起こしている自分たちについて誇れることも知った。

この「世界子ども水フォーラム」の経験や情報を引き継ぎ、水に関する諸問題の解決方策の普及・啓発と子どもたちのネットワーク構築等による人材育成を目的として、日本国内で2003年より「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」を毎年開催し、今年で10回目となる。

「世界子ども水フォーラム」は「世界水フォーラム」に合わせて、2006年に第2回大会がメキシコで、2009年に第3回大会がイスタンブール（トルコ）で開催され、2012年にマルセイユ（フランス）では子ども水フォーラムが開催されなかったが、公式セッション「Children Solution's」として日本の子どもたちが発表した。

今回が第10回目となる「全国中高生水フォーラムー未来につなぐ水のリレーー2012」においては、自分たちが行っている水に関する活動等に加え、今回、改めて知った水の恐さ、水の大切さや人と水との関わり等についてお互いに議論し、考え、発表する機会を提供することにより、将来に向けての子どもたち自身の活動の更なる発展を期待するとともに、子どもたちの水に関するネットワークを構築することを目的とする。



ー未来につなぐ"水のリレーー 2012

●開催目的

全国中高生水フォーラムー未来につなぐ水のリレーー 2012 の開催目的

本大会は以下の5つの目的のもと開催されました。

- ① 世界子ども水フォーラム及びフォローアップ大会における経験及び成果を引継ぐ。
- ② 水に関する活動を広げていくため、自分たち子どもができることを議論する。
- ③ 子どもたちの水に関するネットワークを構築する。(同じ仲間がいることを知る。)
- ④ 次世代を担う子どもたち、若者たちを育成する。
- ⑤ 第6回世界水フォーラム(フランス)で得た情報を共有する。

●開催概要

全国中高生水フォーラムー未来につなぐ水のリレーー 2012 の開催概要

- ①開催日程：平成24年8月7日(火)～9日(木) 2泊3日
- ②開催場所：千葉県立君津亀山少年自然の家
- ③主 催：全国中高生水フォーラム 実行委員会
- ④共 催：(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
- ⑤後 援：文部科学省、国土交通省、環境省、全日本中学校長会、NPO法人日本水フォーラム、
NPO法人自然体験活動推進協議会、NPO法人川に学ぶ体験活動協議会、
(公社)ガールスカウト日本連盟、(公財)ボーイスカウト日本連盟

●特徴と効果

全国中高生水フォーラムー未来につなぐ水のリレーー 2012 の特徴と効果

- 水に関心を持っている、さらに自ら活動している中高生を全国から募集
- 水問題に関する作文審査による選抜
- OB・OG等からなる大学生・大学院生がファシリテーター等の運営スタッフとなり、大会運営の中心的役割を担う
- 自分達自身の活動発表やグループ討議の結果を発表することによるスキルアップ
- 自分たちの活動に対する改善と他への普及に向けてのネットワークの構築

目 次

開催趣旨	1	第1分科会	15
開催目的	2	第2分科会	17
開催概要	2	第3分科会	19
特徴と効果	2	第4分科会	21
大会プログラム	3	第5分科会	23
運営スタッフ講習会	4	全国中高生水フォーラムー未来につなぐ	
大会の様子		水のリレーー2012に参加して	25
1日目／8月7日(火)	5	参加者一覧／実行委員・運営スタッフ一覧	26
2日目／8月8日(水)	9	関連ウェブサイトのご紹介	26
3日目／8月9日(木)	13		

大会プログラム

プログラム (8/7・火)

- 11:00 移動・バス
(羽田空港出発)
★分科会担当スタッフ等顔合わせ
★昼食【海ほたる】
- 13:00 受付開始
(君津・島山少年自然の家)
★入室(宿泊棟へ)
★写真撮影
(自己紹介カード用)
- 14:00 開会式(研修室)
★開会宣言(参加者代表)
★開会挨拶(実行委員長)
★実行委員紹介
★開催趣旨説明
★記念撮影
- 14:30 オリエンテーション
(研修室)
★スケジュール説明
★本大会の注意事項
★館内利用説明
★全スタッフ紹介
- 15:00 アイスブレイク(研修室)
★名刺交換会
★アクティビティ
- 16:00 マルセイユ大会の報告
(研修室)
★派遣者4名が報告
- 16:30 グループ討議(1)
(研修室)
(5分科会にグループ分け)
★自己紹介レポート発表
- 17:30 夕食(食堂)
★全員で食事
- 18:30 グループ討議(2)
(研修室)
★各グループでのWS
★入浴
- 22:00 消灯・就寝

プログラム (8/8・水)

- 6:45 起床
★清掃
- 7:30 朝食(食堂)
★全員で食事
- 8:30 体験活動
★本日のスケジュール確認
★Eポート体験活動等
(島山湖)
- 11:30 昼食(野外)
★バス移動
- 13:30 グループ討議(3)
(創作室・和室研修室)
★体験活動の振り返り
★各グループでのWS
- 15:30 交流会①(和室研修室)
★参加者全員でWS
- 16:30 グループ討議(4)
(創作室・和室研修室)
★各グループでのWS
- 18:00 夕食(食堂)
★全員で食事
- 19:00 グループ討議(5)
★各グループ発表準備
★各グループ成果取りまとめ
★入浴
- 22:00 消灯・就寝

プログラム (8/9・木)

- 6:45 起床
★清掃
- 7:35 朝食(食堂)
★後片付け等退所準備
- 8:30 会場へ移動
- 9:30 全体成果発表会
(研修室)
★各グループの発表
★意見交換
- 11:50 昼食(食堂)
★全員で食事
- 13:00 閉会式(研修室)
★講評(実行委員)
★閉会宣言(参加者代表)
★閉会
★記念撮影
- 14:00 出発
(君津・島山少年自然の家)
★バスにて移動
(自然の家→羽田空港)
- 16:00 解散(羽田空港)



運営スタッフ講習会

今年が第10回目の大会ということで運営スタッフ講習会は大学生のスタッフを中心となって、講習会の運営や進行を行いました。一日目は実行委員の沖大幹先生を講師に迎え『水について「水危機ほんとうの話」』というテーマで講義が行われました。また玉川大学の根上明先生よりファシリテーションの心構え等について、様々なアドバイスをいただきました。



司会進行をする大学生スタッフ



沖実行委員の講義を受けるスタッフ&事務局メンバー



根上講師によるワークショップ



運営スタッフ&事務局メンバーによる大会に向けての目標と意気込み!

集合から会場まで

今回は参加者全員が羽田空港に集合しました。

久しぶりの再会に感激を抑えられない参加者や運営スタッフがいるなか、初めて参加する人は少し不安気な表情でしたが、運営スタッフの人達が優しく声をかけて緊張の糸をすぐに解してくれました！

参加者は、分科会毎のグループとなってバスへ乗り込み、途中海ほたるで昼食をとり千葉県立君津亀山少年自然の家へ向かいました。



新幹線と電車組は品川駅で待合わせ！



参加者の到着を待つスタッフたち



第3分科会



第2分科会



第5分科会

開会式 14:00~

開会式は、この大会の最年少である中学一年生の行廣真君と有吉ひかるさんの二人が『今日ここに集まった私たち中・高校生は「水」というキーワードを共有しています。「水」は私たち人間だけではなく、地球上の生物にとって最も重要なものの一つです。また「水」は、大きな恵みを与えてくれるとともに時には、洪水や津波という災いをもたらします。この「水」について、全国から集まった仲間とともに話し合い、日頃から取り組んでいる活動の情報や意見交換を行なう事で、ネットワークを作っていきたいと思います。ここに『全国中高生水フォーラムー未来につなぐ水のリレーー 2012』の開催を宣言します。』と、力強く堂々とした開会宣言で始まりました。



北野実行委員長の開会挨拶



参加者代表による「開会宣言」



三輪センター長の開会趣旨説明



竹下実行委員の挨拶



大江実行委員の挨拶



吉富実行委員の挨拶



開会式直後の全体写真

💧 アイスブレイクとマルセイユ大会の報告 15:00~

アイスブレイクの内容は、運営スタッフ講習会で話し合い工夫をして実施しました。「ぱちぱちインパルス」や会場が千葉県ということで「ピーナッツ鬼」などを行いました。

また3月にマルセイユで開催された「第6回世界水フォーラム」の参加活動報告を4名の中高生が発表しました。



英語でスピーチする田中美穂さん(愛知県)



マルセイユ大会の報告をする重政祐貴君(広島県)、
小林タ里子さん(神奈川県)、仲野健太郎君(福岡県)



分科会 16:00~

アイスブレイクの後、五つのテーマごとの分科会に分かれてグループ討議が行われました。各分科会等には大学生のファシリテーター、記録係が各1名つき、中高生同士の話し合いをサポートしました。分科会では、事前学習レポートの発表や、活動の紹介、三日目の全体発表会に向けた資料作り、発表練習が行われました。



●第1分科会



●第2分科会



●第3分科会



●第4分科会



●第5分科会

亀山湖での体験活動 8:30~

午前中は君津亀山少年自然の家からバスで10分ほど移動して「亀山湖」で体験活動を行いました。講師の山本トレーナーの説明を真剣に聞いて、スタッフと力を合わせながら準備を進めていました。晴天にも恵まれみんな楽しんでいましたが、参加者からは「ライフジャケットを着たのも、Eボートを実際にみたのも初めてでとても新鮮でした。」また「亀山湖は結構広かったので、もう少し時間が欲しかったです」との声もあがっていました。



亀山ダム管理事務所の監視船によるバックアップ





各分会ごとにEボートを組立て



5艇のEボート及び亀山ダム監視船の全体写真

交流会 15:30~

●マシュマロ・チャレンジ

各分科会、学生選抜、TEAM オトナの7チームに分かれマシュマロ・チャレンジを行いました。
マシュマロ・チャレンジとは

【ルール】

①5～6人1チームによるチーム戦 ②スパゲッティ、テープ、紐、マシュマロを使って自立式のタワーを作る ③自立式のため、テープで足場を固定してはいけない ④計測し終わるまで立っていなければならない ⑤スパゲッティやテープは切ったり、貼ったりして構わない ⑥タワーの頂上に必ずマシュマロを置くこと（スパゲティに刺してもOK）この6個のルールを基にどのチームが一番高くマシュマロをそびえ立てられるかを競争しました。

【ゲームスタート!】

いよいよマシュマロチャレンジ開始です！最初は各チーム、手さぐり状態で考えを巡らせていました。とりあえず作ってみるチーム、何をしたいかわからず途方に暮れるチーム、マシュマロを天井にテープで張り付けたりと様々でした。結果は第5分科会チームが優勝！このゲームをやることでチームの絆が一層深まっていきました。





事務局スタッフのコメント



(事務局スタッフ)
大村 岳



(事務局スタッフ)
久末 俊幸

- 最初はみんなカメラに遠慮していたけれど、最後は皆カメラに笑顔を向けてくれて嬉しかった。今回が初めての参加だったが、もっと早くみんなと関わりたかったと思います。こういう場を得られるみんなは恵まれていると思うので、来年は友達にも教えて一緒に参加してください。事務局スタッフとして力になれたかはわかりませんが、非常に楽しく勉強をさせていただきました。(大村 岳)
- みんなが一つのことに頑張っている姿をみてすごいなと思いました。楽しかったし、参加者もいい子たちばかりだったので、参加してよかったと思っています。

周りの優秀な学生(運営スタッフ)に囲まれて、最初は戸惑いも感じましたが、とても楽しい時間を過ごせました。参加者の子たちからも、たくさんの刺激を受けたので、それを糧に、これから更に、私も頑張っていこうと思います。(久末 俊幸)

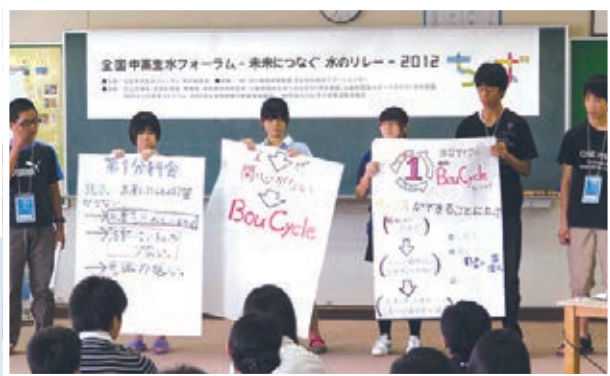
全体発表会

9:30~

発表会では各分科会で二日間話し合った内容について、演劇形式やクイズ形式など、表現力豊かでかつ分かりやすく工夫しながら個性豊かに発表していました。

実行委員の方々からのコメントが参加者にとってはとても勉強になったようです。

第1分科会



第2分科会



第3分科会



第4分科会



第5分科会



参加者の感想

- ▶ 去年と今年と違った発見ができたことがよかった。楽しめなかったけど来年も参加したい
- ▶ 楽しい三日間だった。三日目に一番馴染んだ。
- ▶ みんな繋がっているということを実感できた。
- ▶ 最後にはみんなと色々話せた。来年もぜひ参加したい。
- ▶ 話し合いもどうすれば良いか想像できなかったけど、運営スタッフに助けてもらった。

閉会式

閉会式では北野実行委員長より「今日発表したことや考えたことを行動で表し、周りの人の核となるように頑張ってください。また全国から来て同じ釜の飯を食った友達との関係を今後も継続して行ってほしいです。」との激励の言葉がありました。最年長の二人、藤田雅巧君（青森県）が青森弁を交えながら、また吉野智美さん（山口県）は大会最後ということで感極まり涙々の閉会宣言となりました。

最後に（財）河川環境管理財団の鈴木理事長より「色々な学年、経験の人が集まって、一つのことを実現していったことは素晴らしい。学んだことを鵜呑みにしないで、自分で考えて知識を深めていってください。」との挨拶があり全国中高生水フォーラムー未来につなぐ水のリレーー 2012 大会の幕が閉じました。



鈴木理事長の挨拶



北野実行委員長の全体講評



閉会式直後の全体写真

第1 分科会

水による災害 (洪水や津波、土砂災害等)



水害に対して取組んでいること。

●発表の概要

2日間の議論によって明確化したキーワードを提示し、それらをもとに現状・課題・解決策・理想像のプレゼンテーションを行いました。また、最後には解決策のひとつとして提案した「防災サイクル（防サイクル）」をもとに自分たちの活動と結びつけ、参加者全体に防サイクルの活用を促しました。



●北野実行委員長コメント

- アプローチは大変よかったが、その防災サイクルをどう立ち上げて、チェックしていくか、があるともっとよかったと思います。
- 原稿を読むのではなく、キーポイントのみメモしておいて、自分の言葉で言えると説得力があり、もっとよくなると思います。
- 実際に活動していることを発表するので、地域の特徴に合った活動をしていることがわかりました。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
新國 宏樹



記録係
土井 理美

●今回、初めてファシリテーターとして参加し、議論の進め方や深め方を自分なりに模索し、悩み抜いた時間でした。でも、いつも参加者のみんなやスタッフに助けられ、何よりも自分が大きく成長できた3日間でした。また、参加者の熱意や創造力、行動力は今まで接してきた同世代と比べものにならないパワーで、そんなみんなと共に過ごした3日間は私にとって最高の夏でした。本当にありがとう。この3日間を通して、感じたこと考えたことを胸に、これからの社会をもっともっと良くなるように、共に頑張っていきましょう。(新國 宏樹)

●三日間で初対面の人達と仲良くなり、様々な活動をし、発表に向けて話し合いを詰めていくというのは大変な作業です。私は今回初めてスタッフ側からの参加でしたが、子どもたちの様子を見て改めてそれを感じました。それでも、活動を通して打ち解けていく過程を見るのはとても楽しいものでした。中高生ならではのひた向きさはある意味才能だと思います。是非、これからも活動を続けて欲しいです。今まで与えられてきたものを、与えられる立場になれたこと、本当に嬉しく感じました。(土井 理美)

めんば〜

川中 聖生
愛媛県 高2



松浦 和也
広島県 中2



吉野 智美
山口県 高3



有吉 巧
福岡県 中3

齊藤 七海
茨城県 高2



下川 雄志
福岡県 高1

第1分科会

ファシリテーター: 山口 記録係: あやめ
まっくん・たけみ・ラモ
きよえ・ななみん・とむ

私達は、水に関する災害(洪水や津波、土砂災害等)について話し合いました。

第1分科会 ルール

- ・否定しない
- ・聞く時は聞く、言う時は言う
- ・ウエーウエーイwww
- ・やぶるべからず。

まず、自分の活動を紹介し、みんなから意見を伺いました。キーワードをいくつか挙げて、感想をお互いに書き合いました。自分の活動を客観的に見ることでできました。

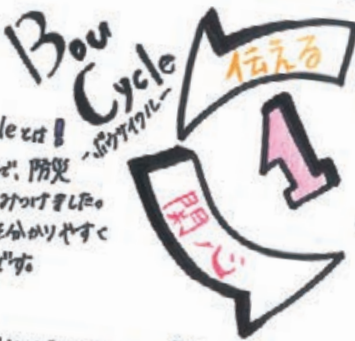
それから、①現状 ②課題 ③解決策・理想をまとめた。発表がありました。徐々に、その方や発表の仕方などが分かってきて、前の紹介の時よりも分かりやすく説明することができました。その後、発表内容をまとめたのでいます。

現状 水害に対して対策が少くない

- ・過去の水害を忘れるから
- ・活動している人が少ないから
- ・意識が低いから

なぜ? 関心がない

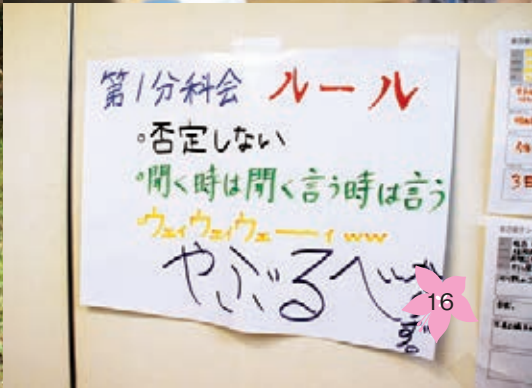
関心を持ってもらうためには? 興味を喚起には?



!! Bou Cycle !!
話し合いの中で、防災のつながりを分かった。そのつながりを分かりやすく図にしたものです。

例えば...
関心... 売れ高の商売
知る... 自分から積極的に活動する人が増える
伝える... 水害以外にも他の災害に対する備えが減る
など、サイクルにあてはまることでできます。

水害を考えると、とても難しいことです。でも、1人でも水害のことを知って、知人でも伝えたら、ちと、備えが減ります。過去にもたくさん水害が起きているので、みんなも水害について考えてみてください。



第2 分科会

川での体験活動



安全な川での体験活動について 取り組んでいること。

●発表の概要

“自分たちの行ってきた体験活動”“みんなに伝えたいこと”“安全について”“Eボート体験活動を通して”というテーマに関して、個人でまとめ、全体で共通し、その後、議論の中心となった“安全”というワードから関連する事項を挙げ、最後に水フォーラムとの関連性を議論し全体との結びつきを考えました。発表の流れとして、最初に議論したことをポスターを使い、次に発表したことの復習をかねてクイズ形式で参加型の発表をしました。最後にまとめを口答で発表しました。



●三輪実行委員のコメント

- ポイントを述べ、クイズ形式で復習という流れは良かったですが、クイズでもう少し元気を出せばもっとよかったと思います。
- 4つめの「地域のルール」とは何か？事例があると更に解りやすかったと思います。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
佐々木 和也



記録係
中林 晴香

- 何かを参加者に教えるというよりも、逆にたくさんのことを教えてもらった気がします。ファシリテーターの色で分科会の色が決まるという話を聞いておりましたが、それを実感するとともに、参加者の様子でファシリテーションの色を変えていくことも大切だと実感しました。

たくさんの学びがあった3日間でした。今回、全国中高生水フォーラムに携わったすべての方々に感謝の意を示したいと思います。ありがとうございました。(佐々木 和也)

- 初めての水フォーラムで右も左もわからなかった私が三日間を乗り切れたのは子どもたちがどんどんと成長していく姿をみせてくれたお陰です。だんだんと正直で素直な彼らの人間関係は、表情や言葉に上下関係やプライドなどのオブラートにかぶせた大人からは学ばせてもらえないことを、教えてくれると感じました。この3日間の思いでは本当に大切にしたいです。この様な場をつくって下さった先輩や皆さんに心から感謝したい。(中林 晴香)

めんばー

宮城県 中3
武野 耕大



愛知県 高1
田中 美穂



広島県 中1
行廣 真



広島県 中3
脇川 晏奈



愛媛県 高2
稲石 善廣



山口県 中3
石光 七彩



第2分科会 ～安全な川での体験活動～

メンバー

ファミリーリーダー

- ・佐々木 和也 (しんや)
- ・武野 耕大 (こうた)
- ・脇川 晏奈 (いな)
- ・石光 七彩 (しちさい)

記録係

- ・中林 晴香 (はるか)
- ・田中美穂 (みほ)
- ・行廣 真 (まこと)
- ・稲石 善廣 (よしひろ)



Eボート体験

体験活動をするもののメリット

- ・大人も子どもも学べる。
- ・川(環境)の現状を知ることが出来る。
- ・集団行動の大切さが分かる。
- ・五感で感じられる。
- ・自然について考えるようになる。
- ・水辺の危険・楽しさがわかる。
- ・協力することの大切さを知ることが出来る。
- ・きずなが深まる。

私たちはEボート体験を通して、皆で力を合わせ、協力してこそ、声かけをすることによって交流を深めることが出来ました。

また、体験することによって自然の豊かさを感じて、亀山湖の様子も知ることが出来ました。



安全な活動をするために

- ・安全な装備で!
- ・みんなで協力!
- ・指導者のいうことを聞く!
- ・しっかり準備する!
- ・体調を整えておく!
- ・ルールを守る!

まとめ

水辺で活動するときは、

- ・しっかり計画を立てる。
- ・十分な装備で。
- ・集団行動では、指導者の言うことを聞く。
- ・地域毎のルールや活動するときのルールは守る。
- ・知恵の共有と発信

以上のことに気を付けて 楽しい活動にしましょう。



第3 分科会

水と自然環境の 保全・復元・再生



水環境や自然環境の保全・復元・再生するために取組んでいること。

●発表の概要

「保全・復元・再生」というテーマについてイメージや連想することを共有した後に、メンバーそれぞれの活動を挙げ、グルーピングを行いました。すると、おおまかに①水フォーラム、②学習、③伝える、④フィールドワークの4つに分けられました。なかでもフィールドワークは、みんなが熱心に行っていて「保全・復元・再生」すべてが含まれている活動です。実際に現場に行って活動を行うことが重要です。メンバーみんなは現場に行って活動することが大好きです。楽しいです。ただ、楽しいだけでなく、活動には良かった点・改善点があります。改善点を克服することで「次へ」つなげることができます。みんなもっと積極的に現場に行っていきたいと思っています。

●北野実行委員長コメント

- 保全・復元・再生をどう捉えているのかの定義を示すと良かったと思います。
- KJ法、ブレインストーミング法。(人の言った意見を絶対否定してはいけない。パスしてはいけない) メリットとデメリットをポストイットの色を分けて使うと良いが、この方法は原稿に使うもので発表に使うものではありません。また字が小さくて見ている人に解りづかったかもしれません。

●三輪実行委員のコメント

- 「現場で」をテーマにしたのは良い視点だと思います。
- ポストイットで流れがきちんと整理されていて良かったです。時間が余っていたので、もう少し説明があると良かったと思います。



ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
仲野 美穂



記録係
川中 寅生

- 初めてのファシリテーターで、どう進めていいのかすごく迷ったし、戸惑いました。でも、みんなと一緒に結果を作り上げていけたことがとても楽しかったです。子どもたちも、また来年も来たいと言ってきて、すごくうれしかったです。参加者の人達には振り返って地元でアクションを起こしてほしいです。(仲野 美穂)
- 今回は初めてスタッフとして水フォーラムに参加させていただきました。外側から見ていて分科会の話し合いの時、時間が経つにつれ、笑う子が増えたり、輪になった時の距離が縮んだり、積極的に意見を出したり、やっぱり水フォーラムは楽しいと思いました。参加者のみんなには今回この大会で手に入れたものを地元での活動に活かしてもらいたいです。(川中 寅生)

めんばー

重政 祐貴
広島県 高1



高田 美亜
福岡県 中2



藤田 雅巧
青森県 高3



柳井 優希
兵庫県 高2



河野 新大
広島県 中3



糸半

～繋げる～

みんなの活動

1. 学習

① 授業

② 見学

2. 伝える&発表

① 授業

② パネル

③ ワイズ

3. フィールドワーク

① 水質調査

② ゴミ拾い

③ ホタル

改善点

→ 授業がない → 自ら作ろう!
→ 教えてもらうんじゃなくて自ら知る!

→ 関心も高めた → 工夫する
→ 上手に伝えられ → カンファレンス
→ 内容が似てくる → 一層工夫する

→ 継続 → 継続しよう
→ 人不足 → 呼びかけ
→ 意識が低い → 伝えよう

みんなに発信したいこと

We ♥ GE-N-BA



メンバー

おほ (ファシリテーター)
とら (記録係)
おじちゃん
やいちゃん
レイト
アラちゃん
おあ

第3分科会



第4 分科会

生活や産業に必要な水



日本における日々の生活（暮らし、産業）において必要な水について思うこと、取り組んでいること。

●発表の概要

生活排水や工場排水、川へのごみのポイ捨て——産業や生活に関わる水にはさまざまな問題があり、これによって川の水質が悪化し、川に生息できる生物が減少しています。私たちは各地で、産業や生活によって汚された川の水質を改善するため、川にすめなくなった生物を保護するための活動を行っています。そんな私たちの活動には、他の人が「興味を持ってくれない」という共通の問題点があります。産業や生活にかかわる水の問題は、全て人間によるものなので、多くの人が興味を持つことで解決につながるが多いと思います。そして、興味を持ってもらうためには、まず現状を知ってもらうことから始めるべきです。



●北野実行委員長コメント

- 寸劇形式とは工夫してよかったが、水の質の話ではなく、水の量的な面がもう少し欲しかったです。

●小池実行委員のコメント

- いろいろなお国言葉でよかったし楽しかったです。
- 劇の前に自分の経験と水との関係を結びつけて説明するとより解りやすかったと思います。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
荒川 桃子



記録係
三輪 圭吾

- 議論を上手に組み立てることは出来なかったけれど、参加者が楽しいと思ってくれたらそれで成功だったと思いました。最後の最後にみんなと仲良くなってもっともっと話したいというところで、大会が終わってしまうと毎回思いますが、これから一年間それぞれ地元で活動して、また来年成長した姿を見せてくれたら嬉しいです。別れ際に、「今年は自分の意見をあんまり言えなかったけど、来年もぜひ参加したい」と言ってくれて、とても嬉しかったです。（荒川 桃子）
- スタッフとして、参加して初めて忙しいと感じました。仲良くなっていく様子がひしひしと感じられました。スタッフにとってもスキルアップにつながり、スタッフのファシリテーション能力が上がると感じました。

記録係とファシリテーターのコンビ力が大事だと感じました。来年はファシになりたいと思っていて、もっと意見を交流し、まとめられるようになって、1年後この大会に帰ってきたいです。（三輪 圭吾）

中河 由衣
大阪府 高2



北澤 大希
広島県 中2



有吉 ひかる
福岡県 中1



仲野 健太郎
福岡県 高2



廣安 祐華
広島県 高1



水戸 隆太
北海道 高2



第4分科会

メンバー

- | | |
|---------------|----------------|
| 荒川 桃子 (ももちゃん) | 三輪 圭吾 (めい) |
| 水戸 隆太 (りゅうた) | 中河 由衣 (ゆい) |
| 廣安 祐華 (ゆかり) | 北澤 大希 (だいき) |
| 有吉 ひかる (ひかる) | 仲野 健太郎 (けんたろう) |

今の日本の水問題とは?

- ・ゴミのポイ捨て
- ・護岸のコンクリート化
- ・生活・産業排水 → 富栄養化、水質汚染
- ・異常気象

これらの問題と解決するために私たちは?

- ・ゴミ拾い
- ・水問題の啓発活動
- ・絶滅危惧種 (スイゲンゼンタゴ) の保護
- ・水生生物による水質調査
- ・COD調査
- ・フタル・飼育・放流
- ・魚類調査

しかし、これらの活動には次のような問題がある

- ・人手不足
- ・ゴミが減らない
- ・環境への意識が低い
- ・同世代の理解が少しい
- ・地域住民の川への無関心
- ・川に近付きにくい

だが私たちは1人でも多くの人に川への興味・関心を持ってもらいたい
川への興味・関心を持ってもらうことができれば



第4分科会
の
ハカ

- ・敬語を使わない
- ・人の意見と聞き入れる
- ・仲間と大切に付き合う
- ・全員参加
- ・あらかた意見をポジティブに
- ・100倍リアクション
- ・えんじはいい
- ・わからないことはちゃんと言う

第5 分科会

水の歴史や文化



日本における水の歴史や文化について、伝えたいこと。

●発表の概要

身近なことで水の歴史や文化を感じることを起点に議論し、得られた気づきを模造紙にまとめ発表しました。進行・祭り・食・農業・観光・遊び・生活・災害などを通して人々は水と関わり歴史や文化をつくってきたこと。それぞれの関わりの中で人々は水に対してプラスの考え方、マイナスの考え方をして、良い歴史・文化、悪い歴史・文化を築いてきたこと。そこから見た、今自分達がすべきことをメンバーの普段の活動を交えて参加者に発信しました。



●小池実行委員のコメント

- 最初に話す手順を示していたので、何を話すか解りやすかったが、人数が6人いるので、資料を持つ人と話す人に分けて発表すればよりよかったと思います。また具体策が少し弱かったので、どうしたら自分が参加できるかを具体的に示せるとより良い発表になったと思います。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
川崎 翼



記録係
中村 翔也

- 難しいテーマだと感じていましたが、いざ分科会が始まるとみんな楽しそうに議論してくれたので、とてもうれしかったです。僕自身も、普段の生活では感じる事が出来なかった様々な地方の水の文化に触れることができ、楽しい時間を過ごすことが出来ました。今回のワークショップを通して議論の進め方が学べたと思います。今後のローカルな活動にも活かしてもらえればと思います。3年間水フォーラムに関わらせていただいて今年で最後となりましたが、今後もこの会を通して出会えた仲間を大切にしていきたいと思います。3日間ありがとうございました！（川崎 翼）
- まず、この大会に帰ってきて良かったなと思いました。参加者の言葉を受け止めきれなかったことが反省点です。自分も成長して、みんなも活動が広がった状態で来年も会えたら嬉しいです。三日間本当にお疲れ様でした。（中村 翔也）

めんば〜

堤
悠一郎
福岡県 高1



小林
夕里子
神奈川県 中3



三木
雄平
広島県 中2



森本
優貴美
熊本県 中3



立神
直輝
広島県 高1



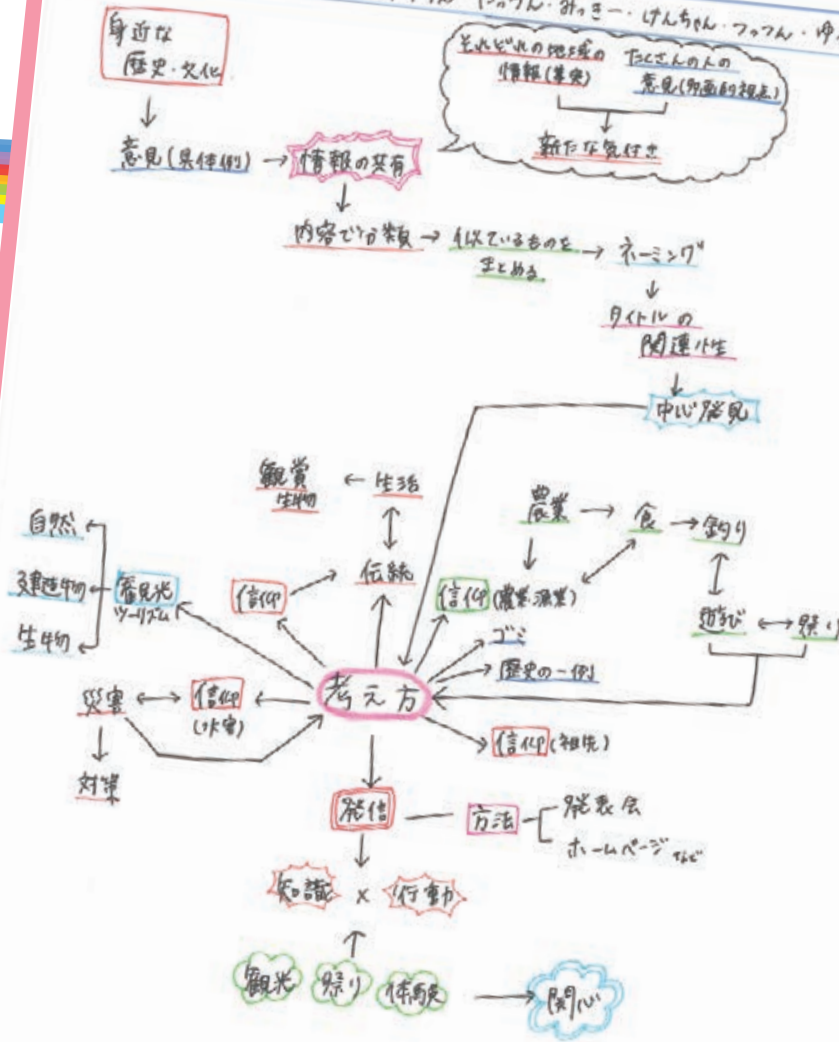
高田
賢人
福岡県 高1



第5分科会 水の歴史や文化

テーマ: 水・自然・文化

トピック: 水・自然・文化・水・自然・文化・水・自然・文化

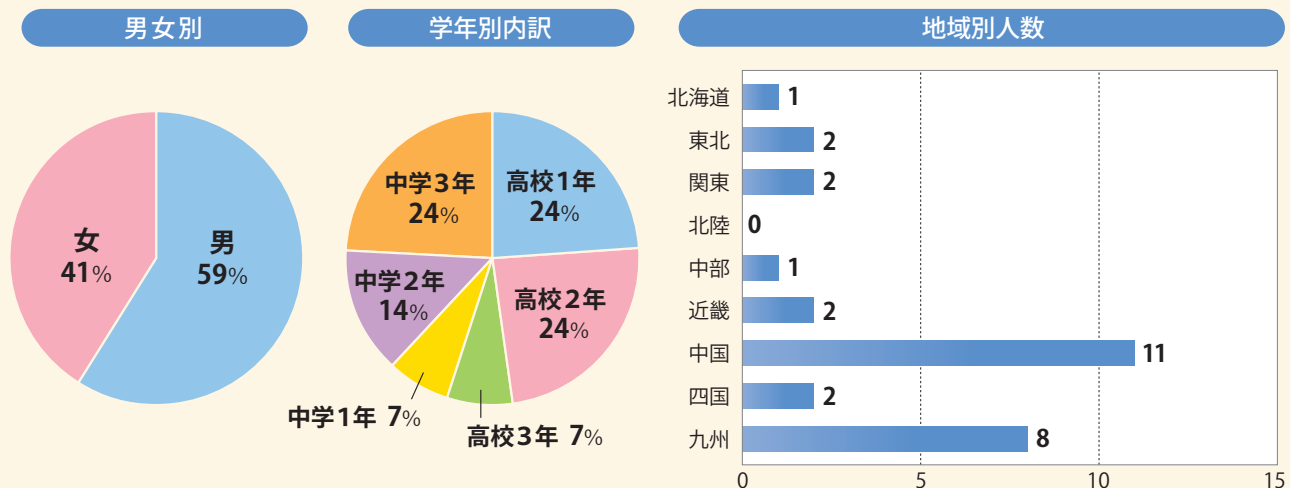


●全国中高生水フォーラム未来につなぐ水のリレー 2012に参加して

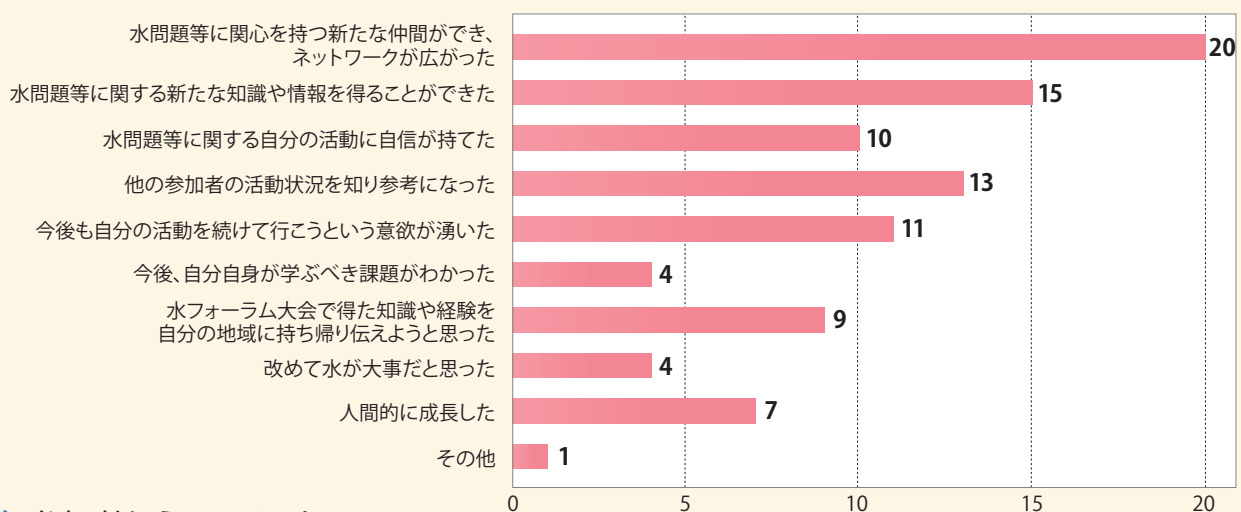
(大会のアンケート結果より)

全国中高生水フォーラム未来につなぐ水のリレー2012の参加者29名に、参加しての感想等についてアンケートを行いました。(回答率100%)ほとんどの参加者は、参加したことがなんらかの刺激となり、活動意欲へとつながっていることが分かりました。また、今大会が同じ活動の仲間としてのネットワーク形成のきっかけづくりにも寄与していると考えられます。

❖ 全国中高生水フォーラム未来につなぐ水のリレー 2012 参加者データ：全体(参考)



Q 全国中高生水フォーラム未来につなぐ水のリレー2012 (以下「水フォーラム大会」)に参加して、特に何が得られたと感じていますか？



❖ 参加者からのコメント

- 水に関する活動や体験活動を地元でもっともっとやりたいと思いました。自分はなかなか活動できてないので、地元での活動を探して参加していきたいです。また何をするにせよ、楽しむことが一番!と改めて感じました。
- お互いの活動を知ることにより自分の地域で行っている活動に活かせるような知識を学ぶ事ができました。自信がさらについたので所属しているクラブでも下級生に指導する等積極的に教える側にも立てました。
- facebookを通してずっと仲間と繋がれるのは心強いし、自分の力になるので、大会後も常に刺激を与えられる。仲間の大切さも学べる。
- 自分から発言する力がつきました。チームを引っ張っていく力もついたと思います。毎年水フォーラムに参加するという目標ができ、活動をより充実した内容にできました。みんなの活動を聞いて自分ももっと頑張ろうと思いました。
- 私は自分の意見を言うのが苦手でしたが、この水フォーラムに参加して自分の意見が言えるようになりました。
- 他の人が行っている取り組みを知ること、これからの活動で改善したい点や、続けていきたい点がより明確になった。また、全国から集まった仲間と交流して、これからも活動が続いていこうという励みになった。

●参加者一覧

県 別	名 前	性別	学年	分科会
北海道	水戸 隆太	男	高2	4
青森県	藤田 雅巧	男	高3	3
宮城県	武野 耕大	男	中3	2
茨城県	齋藤 七海	女	高2	1
神奈川県	小林 夕里子	女	中3	5
愛知県	田中 美穂	女	高1	2
大阪府	中河 由衣	女	高2	4
兵庫県	柳井 優希	女	高2	3
広島県	脇川 晏奈	女	中3	2
広島県	重政 祐貴	男	高1	3
広島県	松浦 和也	男	中2	1
広島県	立神 直輝	男	高1	5
広島県	廣安 祐華	女	高1	4
広島県	北澤 大希	男	中2	4
広島県	河野 新大	男	中3	3
広島県	行廣 真	男	中1	2
広島県	三木 雄平	男	中2	5
山口県	石光 七彩	女	中3	2
山口県	吉野 智美	女	高3	1
愛媛県	稲石 義廣	男	高2	2
愛媛県	川中 聖生	女	高2	1
福岡県	高田 賢人	男	高1	5
福岡県	高田 美亜	女	中2	3
福岡県	有吉 巧	男	中3	1
福岡県	有吉 ひかる	女	中1	4
福岡県	仲野 健太郎	男	高2	4
福岡県	堤 悠一郎	男	高1	5
福岡県	下川 雄志	男	高1	1
熊本県	森本 優貴美	女	中3	5

●実行委員・運営スタッフ等一覧

役 割	名 前	性別	所 属
実行委員長	北野 大	男	明治大学 理工学部 教授
実行委員	竹下 珠路	女	(公社)ガールスカウト日本連盟 副会長
実行委員	大江 近	男	全日本中学校長会 顧問
実行委員	沖 大幹	男	東京大学 生産技術研究所 教授
実行委員	吉富 友恭	男	東京学芸大学 環境教育研究センター 准教授
実行委員	小池 剛	男	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長
実行委員	三輪 準二	男	財団法人河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター長
講習会講師	根上 明	男	玉川大学 非常勤講師
ファシリテーター	新國 宏樹	男	第一分科会
ファシリテーター	佐々木 和也	男	第二分科会
ファシリテーター	仲野 美穂	女	第三分科会
ファシリテーター	荒川 桃子	女	第四分科会
ファシリテーター	川崎 翼	男	第五分科会
記録係	土井 理美	女	第一分科会
記録係	中林 晴香	女	第二分科会
記録係	川中 寅生	男	第三分科会
記録係	三輪 圭吾	男	第四分科会
記録係	中村 翔也	女	第五分科会
事務局スタッフ	大村 岳	男	事務局スタッフ
事務局スタッフ	久末 俊幸	男	事務局スタッフ
事務局	吉野 英夫	男	財団法人河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター 次長
事務局	花田 須磨子	女	財団法人河川環境管理財団
事務局	山本 嘉昭	男	財団法人河川環境管理財団
事務局	菅原 一成	男	財団法人河川環境管理財団
事務局	川畑 理恵	女	財団法人河川環境管理財団
事務局	橋本 仁美	女	財団法人河川環境管理財団
事務局	軍司 江美子	女	財団法人河川環境管理財団

※組織、役職名は大会当時

関連ウェブサイトのご紹介

- ▶ 財団法人河川環境管理財団
- ▶ 子どもの水辺サポートセンター
- ▶ 国土交通省 水管理・国土保全局
- ▶ 川に学ぶ体験活動協議会 (RAC)

<http://www.kasen.or.jp/>
<http://www.mizube-support-center.org/>
<http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/index.html>
<http://www.rac.gr.jp/>

全国中高生水フォーラム —未来につなぐ水のリレー— 2012 実行委員会事務局

財河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター内

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル 2F

TEL : 03-5847-8307 FAX : 03-5847-8314
www.mizube-support-center.org

